

平成30年度市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門) 事業実績1

事業者	団体名	市民エネルギー鳥取	代表	手塚 智子
事業内容	助成事業名	災害に役立つエコなライフスタイルと地域エネルギーの普及・活用事業		
	事業目的	<p>災害はいつでもどこでも誰にでも起きることを前提に、常日頃から備えることが重要です。また、被災時には身近にあるものを工夫して使うことを求められます。</p> <p>この事業では、身近にある再生可能エネルギー(地域エネルギー)が災害時にも役立つことを体験し、その具体的な利用方法を知り、さらに地域に分散してエネルギー供給拠点を増やしていくことの重要性を共有することを目的としました。また、災害時にも日常でも地域エネルギーの利用を実践する人々を増やすことを通して、地域の防災力と持続可能性を向上することを目的としています。上記の目的に取り組むことで、地域エネルギーの活用と防災力の向上を推進し、気候変動の緩和と適応を足元から進めるとともに、食・水と同様にエネルギーの地産地消を促し、中・事業運営:市民エネルギーとつとり(企画・調整・報告2名、運営・広報6名ほか)</p> <p>・協力:住宅用太陽光発電設置者(鹿野・青谷・国府など)、自治会(吉方)</p>		
	実施体制	<p>1 見学、体験会</p> <p>(1)災害時に役立つ!電気を使わないクッキング</p> <p>ア 実施日 12月1日 イ 実施場所 かちべ伝承館</p> <p>ウ 対象者 一般市民 エ 参加人数 大人24、子ども5</p> <p>オ 概要 ソーラーグッズ・車載式家電製品等の利用体験、電気を使わない</p> <p>クッキング・試食、地元の炭焼きの話を聞く会</p> <p>(2)体験会、自立運転機能の利用実験</p> <p>ア 実施日 7月4日~3月30日</p> <p>イ 実施場所 (ア)住宅用太陽光発電所(鹿野、国府、青谷)</p> <p>(イ)集会所の太陽光発電所(吉方温泉4丁目)</p> <p>(ウ)市民共同発電所(空山ポニー牧場、とりちく若葉台)</p> <p>ウ 対象者 一般市民</p> <p>エ 参加人数 各回3~12名</p> <p>オ 概要 太陽光発電の設置場所を見学し、停電時の自立運転機能を実際にどのような機器(テレビ、扇風機、スマホ充電等)に使えるかを実験・体験する。</p> <p>2 講演会・報告会</p> <p>ア 実施日 2月23日 イ 実施場所 県民ふれあい会館大研修室</p>		
	事業の内容	<p>(1)災害時に役立つ!電気を使わないクッキング</p> <p>ア 実施日 12月1日 イ 実施場所 かちべ伝承館</p> <p>ウ 対象者 一般市民 エ 参加人数 大人24、子ども5</p> <p>オ 概要 ソーラーグッズ・車載式家電製品等の利用体験、電気を使わない</p> <p>クッキング・試食、地元の炭焼きの話を聞く会</p> <p>(2)体験会、自立運転機能の利用実験</p> <p>ア 実施日 7月4日~3月30日</p> <p>イ 実施場所 (ア)住宅用太陽光発電所(鹿野、国府、青谷)</p> <p>(イ)集会所の太陽光発電所(吉方温泉4丁目)</p> <p>(ウ)市民共同発電所(空山ポニー牧場、とりちく若葉台)</p> <p>ウ 対象者 一般市民</p> <p>エ 参加人数 各回3~12名</p> <p>オ 概要 太陽光発電の設置場所を見学し、停電時の自立運転機能を実際にどのような機器(テレビ、扇風機、スマホ充電等)に使えるかを実験・体験する。</p> <p>2 講演会・報告会</p> <p>ア 実施日 2月23日 イ 実施場所 県民ふれあい会館大研修室</p>		
	事業の成果	<p>身近にある再生可能エネルギー(地域エネルギー)が災害時にも役立つことを多様な形で体験し、具体的な利用方法を知る場を作ることができました。個人宅、集会所、市民共同発電所など、複数の異なる場所での体験会をとおして、地域に分散してエネルギー拠点を増やしていくことの重要性を様々な観点から共有することができました。</p> <p>太陽光発電設備には、停電時に発電した電気を利用できる「自立運転機能」多くの場合備わっていますが、今回協力いただいたお宅では実際に活用した異なる方はなく、今回の見学・体験会をきっかけに利用方法を知り、被災時に日照のある時にはご近所の方と電気を分かち合うことができることを実感いただくことができました。</p> <p>ワークショップ参加者からは地域に何があるか、誰がどんな状態にいるかを住民たちが互いに知ること、日ごろのコミュニケーションが大事、といった主体的で本質的な意見が多く出され、当事者意識を高める機会になったことは大きな成果を感じています。</p>		
今後の活動の展望	<p>見学・体験会、ワークショップ形式のパッケージ化を進め、まずは防災に関心の高い地域やNPOの方々とは連携して小さなグループでのワークショップ等の開催を続ける。</p> <p>昔から活用されてきた地域エネルギーである薪炭(熱利用)にも着目し、見学、利用体験、実践者との交流、対話の機会を引続き作っていく。今年度は体験できなかったが、マイクロ水力発電所を今後の見学先に取り入れたいと考えている。</p> <p>これらをとおして身近にある再生可能エネルギーの利用により幅の広い方々が関心を持ち、足元からエネルギー生産拠点を増やしていく人々や地域が広がることをめざす。</p>			
費用	総事業費	258,822円	助成金額	200,000円